

1 本構想のコンセプト

第3章定山溪観光の現状及び第4章定山溪観光の課題を踏まえ、令和7年（2025年）～令和16年（2034年）の10年間で、定山溪が魅力的な観光地づくりを進めるために、第2次定山溪観光魅力アップ構想では以下をコンセプトとして掲げます。

国内外の来訪者を魅了する 持続可能な温泉観光地 「札幌定山溪」

コンセプトに込められた意味

古くから札幌市民に親しまれてきた定山溪は、近年では海外からの来訪者も多く訪れるようになってきました。ここでいう「持続可能な温泉観光地」とは、観光客と地域がともに利益を享受しながら、継続的に発展していく観光地を指します。その実現には、従来のように札幌市民に愛される存在であり続けることに加え、海外からの観光客を含め、より多様なニーズや顧客層に対応していくことが求められます。

そのために、定山溪の強みである四季折々の豊かな自然や観光スポット、多種多様な宿泊施設、北海道を代表する温泉観光地として積み重ねてきた歴史など地区内の様々な資源を磨き上げ、国内外の来訪者が豊かな時間を過ごすことができるよう、新たな時代を切り拓く創造的で魅力的な温泉観光地を目指します。

2 定山溪観光の基本方針

第3章定山溪観光の現状及び第4章定山溪観光の課題及び、前述の定山溪観光のコンセプトを踏まえ、定山溪の観光魅力アップを目指す将来像の実現に向け、新たな財源となる宿泊税の活用も見込み、以下の4つの基本方針を掲げます。

また、4つの基本方針に基づく取組を実行するに当たって、短期的に取り組む「重点施策」を設定し、魅力的な温泉観光地の実現に向けて、着実に進めていきます。

【定山溪観光の現状】

- ① 国内人口の減少、海外市場の拡大
- ② 客層の変化
- ③ 魅力的な景観形成に向けた取組
- ④ 滞在時間の短さ
- ⑤ 定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ
- ⑥ 定山溪エリアとしての誘客戦略
- ⑦ 定山溪までの交通アクセス
- ⑧ 定山溪エリア内の交通手段及び駐車場の不足

【定山溪の観光魅力アップに向けた課題】

- ① 新たな市場の開拓
- ② 客層の変化への対応
- ③ エリアの特性に応じた戦略的な景観形成
- ④ 滞在時間の延長
- ⑤ 地域固有の資源の磨き上げ
- ⑥ データに基づいた戦略づくりに向けた基盤整備
- ⑦ 定山溪までの交通利便性の確保
- ⑧ 定山溪エリア内の交通利便性の確保

コンセプト

国内外の来訪者を魅了する持続可能な温泉観光地 「札幌定山溪」

基本方針1

定山溪の魅力を感じる街並みや景観の維持/形成

基本方針2

エリアの特性を活かしたコンテンツの充実

基本方針3

戦略的なプロモーションの展開

基本方針4

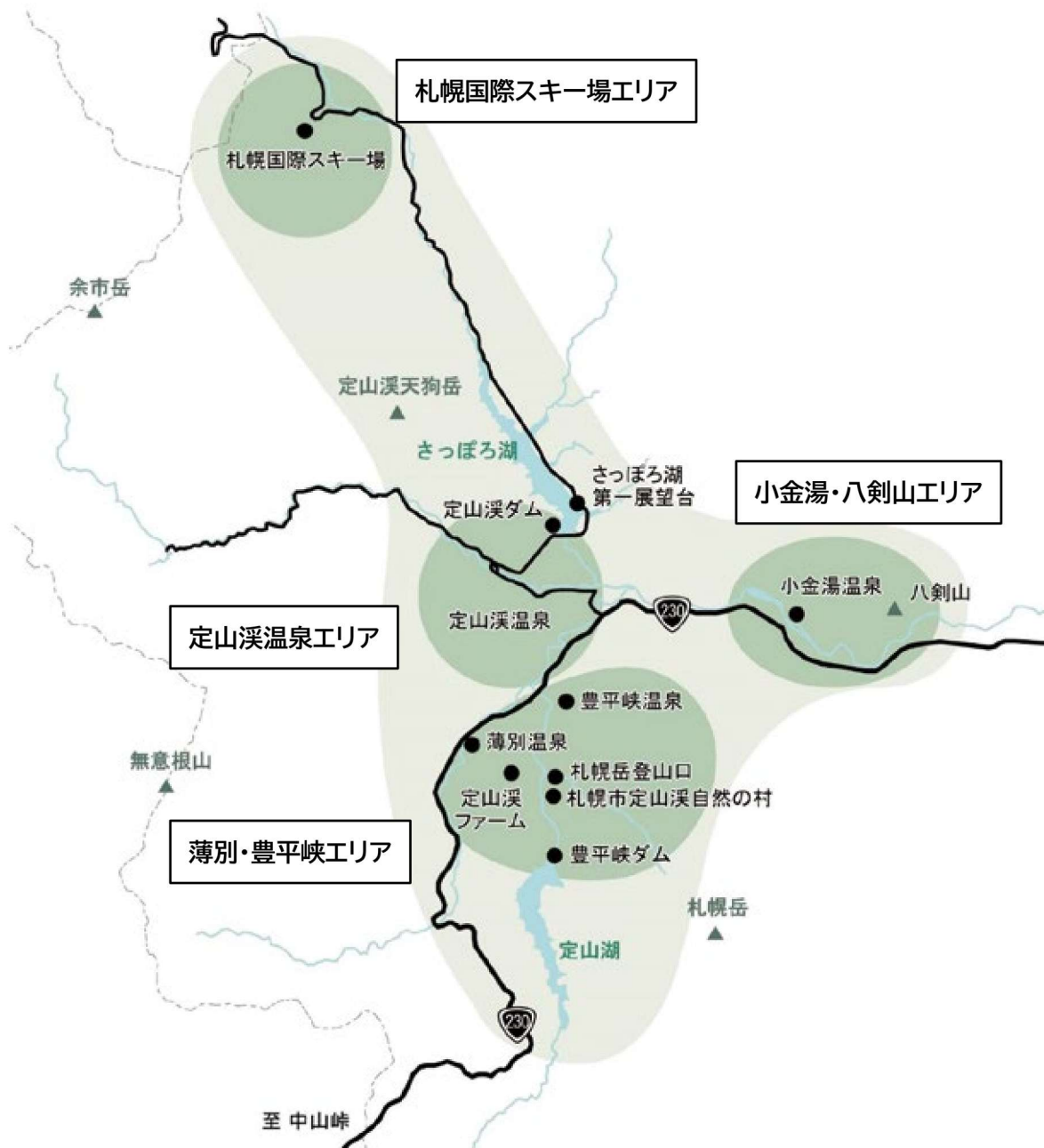
交通アクセスの改善

本構想における対象エリアとゾーニングについて

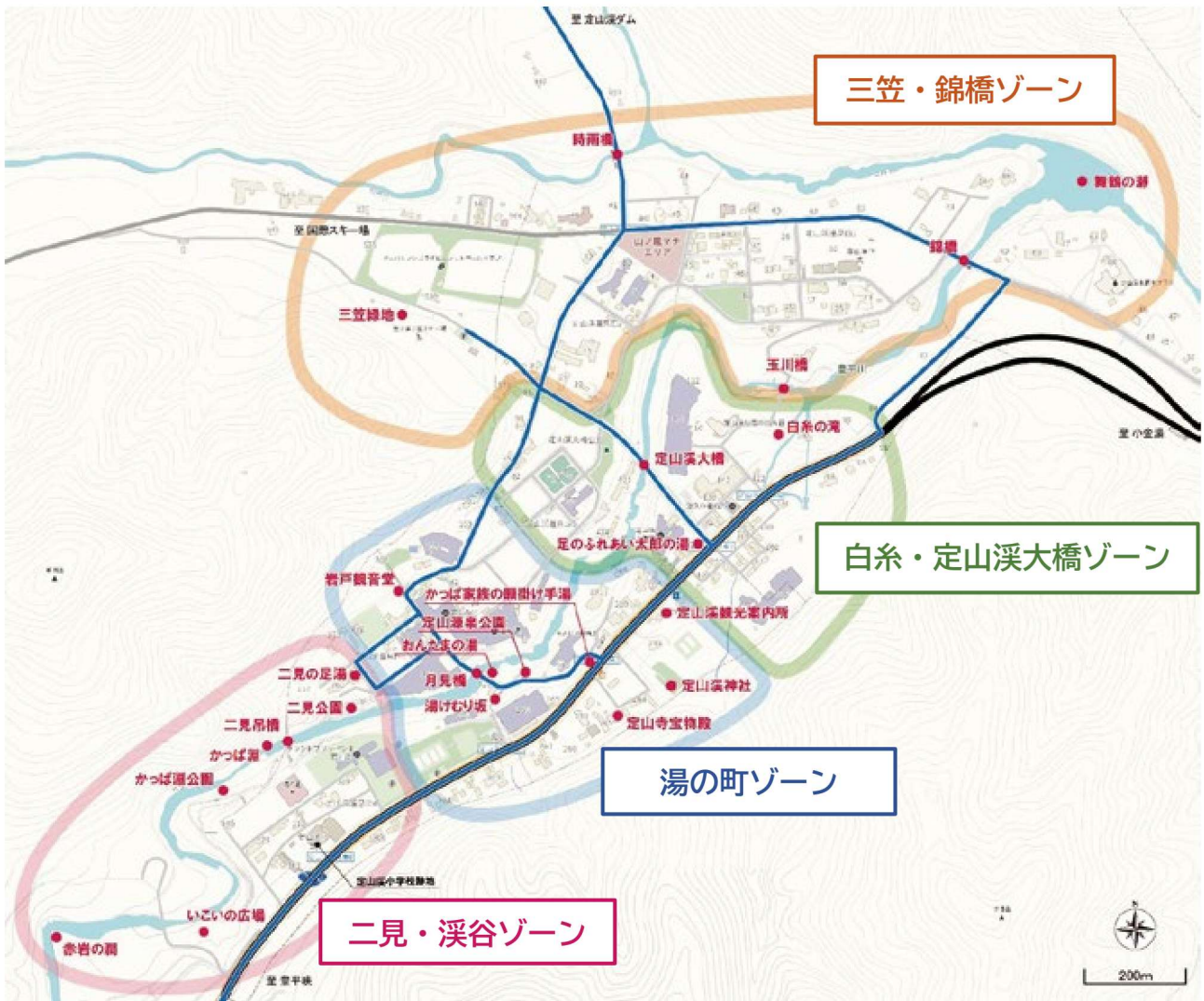
本構想では、定山溪温泉街周辺を「定山溪温泉エリア」、小金湯温泉や八剣山周辺を「小金湯・八剣山エリア」、薄別温泉や豊平峡温泉、豊平峡ダム周辺を「薄別・豊平峡エリア」、札幌国際スキー場周辺を「札幌国際スキー場エリア」と呼びます。

定山溪の中心となる「定山溪温泉エリア」は、豊かな自然景観やアクティビティを楽しめる場所や、昔ながらの情緒あふれる温泉宿が軒を連ねる場所があるなど、エリアによって景観や特徴が異なっていることから、特徴ごとにゾーニングすることで、本構想における景観形成やコンテンツの磨き上げといった取組をわかりやすく表します。

本構想における対象エリア



本構想では、定山溪温泉街を4つのゾーンに分け、その特徴を活かしながら、基本方針に沿った取組を進めていきます。



【二見・溪谷ゾーン】

定山溪温泉街を流れる豊平川の上流に位置しており、自然豊かな散策路「二見定山の道」や「赤岩の澗」、「かっぱ淵」といった景観スポットを有しています。「定山溪温泉かわまちづくり計画」の推進を中心とした、自然との触れ合い体験を重視したゾーンです。

【湯の町ゾーン】

定山溪中央線沿いに、旅館・ホテルが集中し、昔ながらの温泉街を形成しています。「定山溪神社」や「定山寺」、「岩戸観音堂」など歴史的背景を継承する建造物があり、湯の町の歴史を感じるゾーンです。

【白糸・定山溪大橋ゾーン】

「白糸の滝」や「足のふれあい太郎の湯」といった観光資源のほか、眺望点である「定山溪大橋」からは、溪谷と調和した温泉街の景色を眺めることができます。豊かな自然と温泉街の特色を活かした景観の維持向上を図るゾーンです。

【三笠・錦橋ゾーン】

飲食店が集積する「山ノ風マチ」のほか、「三笠緑地」、「玉川橋」、「錦橋」、アクティビティ拠点である「舞鶴の澗」などがあり、グルメと自然が調和する賑わいと癒しを重視したゾーンです。

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 新たな市場の開拓
- 課題② 客層の変化への対応
- 課題③ エリアの特性に応じた戦略的な景観形成
- 課題④ 滞在時間の延長
- 課題⑤ 地域固有の資源の磨き上げ

■ 基本方針のねらい

定山溪温泉街のゾーニング及び「定山溪地区景観まちづくり指針」（平成 29 年（2017 年）策定）の考えを踏まえるとともに、「かわまちづくり計画による河畔園地の整備や景観の改善」を重点施策とし、多様な宿泊施設などを有する温泉街の街並みと豊かな自然環境が形成する景観の魅力を高め、来訪者の満足度向上や口コミなどによる波及効果の拡大を図ります。

■ 基本方針の方向性

方向性 1 豊かな自然を大切にする景観まちづくり

二見吊橋から赤岩の澗（あかいわのかん）へと続く二見定山の道をはじめ、アクティビティの拠点である舞鶴の澗（まいづるのとり）や三笠緑地、かわまちづくり計画において整備を行う二見公園といった美しい自然景観があります。これらの景観を維持するとともに、自然を活かした観光スポットとしての魅力向上のため、景観づくりを進めます。

【取組例】

- かわまちづくり計画と連動した豊かな景観の形成
 - ・かわまちづくり計画による河畔園地の整備など
 - ・二見・溪谷ゾーンにおける、四季折々の自然や、生物・山野草を楽しめる環境・景観の形成
- みどりの保全と創出
 - ・「三笠緑地」や「小金湯さくらの森」など緑地空間の維持向上
 - ・在来種の植栽など



方向性2 歩いて楽しい賑わいとおもてなしを感じる景観まちづくり

来訪者がそぞろ歩きをしたくなるような景観づくりを目指し、賑わいの連続性の創出や環境美化活動を推進します。

また、季節ごとに景観を活かしたイベントを実施するほか、夜間でも景観を楽しめるよう、あかりの演出などを行います。

【取組例】

- ・指定路線や三笠・錦橋ゾーンにおける賑わいの連続性の創出（花やみどりによる演出、季節に応じた花や紅葉する樹種を選定した植栽、飲食店などの立地促進、滞留空間の設置検討など）
- ・景観誘導区域における空き地・空き家調査及び利活用に向けた検討
- ・環境美化活動（ゴミ拾い、草刈り、除雪、植栽など）の推進と維持管理体制の検討
- ・四季の景観を活かしたイベントの推進（溪流鯉のぼり、雪灯路など）
- ・あかりの演出（屋外照明、ライトアップなど）による夜間景観の創出
- ・国道230号沿いなどにおけるウェルカム感の醸成

方向性3 渓谷美を守り活かす景観まちづくり

「定山渓地区景観まちづくり指針」に定められている眺望点や、その他渓谷美を堪能できる場所からの景観向上を図ります。また、渓谷美を守るため、維持管理を積極的に行います。

【取組例】

- ・かわまちづくり計画に基づく護岸整備にあわせた月見橋周辺などの景観の改善及び河川敷などの利用ルール策定
- ・眺望点などからの景観に影響を及ぼす物件などの把握及び改善に向けた検討
- ・河川敷などの日常的な維持管理の強化

方向性4 湯の町の成り立ちを継承する景観まちづくり

温泉街の成り立ちを今に伝える定山溪神社や定山寺など開湯160年を迎える定山溪温泉街の歴史を感じられる資源が残る景観を維持継承していきます。

また、湯の町ゾーンにおける和の雰囲気や温泉街らしさを感じさせる演出などの取組を推進します。

【取組例】

- ・ 定山溪神社、定山寺、岩戸観音堂など温泉街の歴史を感じる資源が残る景観の維持継承
- ・ 湯の町ゾーン内の指定路線などにおける和の雰囲気の演出
- ・ 温泉街らしさを感じさせる湯けむり、暖簾、行灯などによる演出

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 新たな市場の開拓
- 課題② 客層の変化への対応
- 課題④ 滞在時間の延長
- 課題⑤ 地域固有の資源の磨き上げ

■ 基本方針のねらい

「エリアやゾーンごとの特性を活かしたコンテンツや、四季折々の定山溪ならではのコンテンツの充実」を重点施策とし、多様化する観光ニーズに対応するとともに、インバウンドや日帰り客といった新たな客層の取り込みを図ります。また、様々な魅力的なコンテンツを提供することで、宿泊日数及び滞在時間の延長に繋がります。

■ 基本方針の方向性

方向性 1 定山溪温泉街におけるゾーニングとコンテンツの磨き上げ

温泉街を中心とした定山溪温泉エリアにおいて、4つのゾーンの特性を活かしたコンテンツの磨き上げ、充実を図ります。

【取組例】

- 二見・溪谷ゾーン ～自然との触れ合い体験を重視～
 - ・かわまちづくり計画による河畔園地の整備など（再掲）
 - ・「二見公園」、「二見定山の道」（二見吊橋～赤岩の澗）の利活用促進
 - ・生物生息空間[※]を活用した自然体験学習の取組の検討
 - ・四季折々の自然や、生物・山野草を楽しめる環境・景観の形成（再掲）
 - ・アスレチック系アクティビティの検討
- 湯の町ゾーン ～温泉街らしい和の雰囲気、歴史を重視～
 - ・定山溪神社、定山寺、岩戸観音堂など温泉街の歴史を感じる資源が残る景観の維持継承（再掲）
 - ・指定路線などにおける和の雰囲気の演出（再掲）

※ 生物生息空間：多様な生物が共生するための自然環境を人工的に再現または保全した空間。ビオトープ

- ・温泉街らしさを感じさせる湯けむりなどによる演出（再掲）
- ・月見橋からの景観の維持向上とライトアップなどの演出
- 白糸・定山溪大橋ゾーン ～定山溪を象徴する眺望点を活かした景観を重視～
 - ・定山溪大橋から望む溪谷と温泉街が調和した景観の維持向上、演出の検討（ライトアップ、周遊スポットとしての磨き上げなど）
 - ・足のふれあい太郎の湯から、定山溪大橋、玉川橋、白糸の滝までの周遊促進
- 三笠・錦橋ゾーン ～グルメと自然の調和、賑わいと癒しを重視～
 - ・グルメと自然を調和させた特色あるイベントの推進
 - ・錦橋・時雨橋からの景観の維持向上
 - ・三笠緑地の魅力向上やアクティビティなどでの利用促進に向けた検討
 - ・河川敷地をアクティビティなどで利用する際のルール策定

方向性2 定山溪エリア内のコンテンツを活かした滞在メニューの充実

定山溪の各エリアの自然や施設、アクティビティといったコンテンツを組み合わせることで、各エリアを繋ぐ面的な滞在メニューの充実を図ります。

【取組例】

- ・コンテンツを組み合わせた滞在メニューの充実
- エリア別の例

エリア	組み合わせが期待されるエリア別コンテンツの例
エリア共通	<ul style="list-style-type: none"> ・各エリアの泉質の異なる温泉や各施設のサウナ ・豊平川を活用したウォーターアクティビティ ・登山・トレッキング（朝日岳・夕日岳・札幌岳・無意根山など）
小金湯・八剣山	<ul style="list-style-type: none"> ・小金湯温泉 ・文化体験（札幌市アイヌ文化交流センター） ・花見（小金湯さくらの森） ・キャンプ、登山（八剣山、周辺エリア） ・食（ワイナリー、果樹園）
薄別・豊平峡	<ul style="list-style-type: none"> ・豊平峡温泉、薄別温泉 ・景観（豊平峡ダム） ・キャンプ（定山溪自然の村） ・農業体験（果樹園）
札幌国際スキー場	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ（札幌国際スキー場、さっぽろ湖） ・景観（定山溪ダム、さっぽろ湖、道道1号線）

- ・旧定山溪小学校の跡活用の検討

方向性3 季節の特色を活かしたコンテンツの充実

定山溪には、四季折々の多様なコンテンツが存在します。例えば、春に紅葉のように植物が色づく春紅葉や、雪解け時期にだけ現れる滝、雪解け水による激流を利用したアクティビティなど、その季節ならではの観光資源があります。

こうした期間限定の観光資源をコンテンツ化することや、既存のコンテンツを磨き上げていくことも含めて、各季節の「売り」となるコンテンツを設定し、季節ごとのブランディングを確立していきます。

【取組例】

- ・ 既存のイベントの充実や、季節の特徴を活かしたお祭りなどの新たなイベントの検討
- ・ 季節の特色を活かしたコンテンツの充実

●季節ごとのコンテンツ例

季節	コンテンツ例
春	<ul style="list-style-type: none">・ 溪流鯉のぼり・ 雪解け水が流れる幻の滝、春紅葉・ 激流ラフティング・ エゾエンゴサクやカタクリの一群など
夏	<ul style="list-style-type: none">・ JOZANKEI NATURE LUMINARIE・ くだもの狩り（サクランボ、イチゴ、プルーン、りんご、ぶどう など）・ カヌー、SUP・ 菩提樹のはちみつなど
秋	<ul style="list-style-type: none">・ 五大紅葉（ガイド付き観光バス、豊平峡ダム、札幌国際スキー場の紅葉ゴンドラ、など）・ 紅葉サイクリング、トレッキング・ 早朝カヌーから眺める紅葉など
冬	<ul style="list-style-type: none">・ 雪灯路・ 三笠緑地の雪遊び（そり）・ かまくら体験・ 雪見ラフティング、ガイド付きスノーシューなど

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

課題① 新たな市場の開拓

課題② 客層の変化への対応

課題④ 滞在時間の延長

課題⑥ データに基づいた戦略づくりに向けた基盤整備

■ 基本方針のねらい

「データ分析に基づいた市場開拓」を重点施策とし、DMOが持つ観光データの収集・分析機能や、各関係団体との連携・調整機能を活用しながら、時代の流れを汲み取ったきめ細やかで効果的なプロモーション施策を展開し、新規市場の開拓やリピーターの増加に繋がります。

■ 基本方針の方向性

方向性1 戦略的なプロモーションの展開に向けた基盤の構築

来訪者の属性などの、定山溪全体の基礎的な観光データの充実を目的として、持続可能なデータ収集の仕組みを検討します。

また、収集したデータの分析を行い、地元観光関連事業者と共有するとともに、プロモーション戦略を企画立案することができる体制についても検討します。

【取組例】

- ・ 定山溪の観光データの充実に向けた、地元観光関連事業者の負担も考慮したデータ収集方法の検討
- ・ データ分析及び共有に向けた手法・役割の検討
- ・ データ分析に基づくプロモーション戦略の立案に向けた役割の検討

方向性2 ターゲットに応じたプロモーション戦略の立案

定山溪を訪れる観光客のデータ分析結果に基づき、定山溪全体の観光客の動向を把握したうえで、新規顧客の開拓と既存顧客の来訪頻度の増加、滞在時間の延長を目指して、ターゲットに応じた効果的なプロモーション戦略を立案します。

【取組例】

- ターゲットや滞在目的別のアプローチ
 - ・マーケット別（札幌市民、道内、道外、インバウンド）
 - ・世代別（若者、ファミリー、シニアなど）
 - ・目的別（温泉、グルメ、アクティビティなど）
 - ・シーズン別（桜、緑、紅葉、雪など）
 - ・ターゲットや滞在目的に応じた適切な媒体を活用したプロモーションの検討
 - ・旅マエ、旅ナカ、旅アトを意識した段階ごとのアプローチ

方向性3 プロモーションの展開と結果の検証

効果的なプロモーションを展開し続けるためには、実施したプロモーションの結果を分析し、適宜、プロモーション施策を改善していく必要があります。このため、プロモーション実施に向けたPDCAサイクルを行う体制を構築します。

また、継続的にデータを活用した戦略的なプロモーションを実施するためには、地元観光関連事業者の協力が不可欠であることから、情報を共有しながら、定山溪全体として取組を推進していきます。

【取組例】

- ・PDCAサイクルを推進する体制の構築
- ・収集したデータの分析に基づくプロモーションの成果、その他地元観光関連事業者にとって有益な情報の共有
- ・真駒内駅前まちづくりと連携した情報発信

方向性4 様々な主体を巻き込んだ情報発信

近年、飲食店の新規出店やアクティビティ事業者の進出などを契機に、定山溪を訪れる客層が広がりを見せています。来訪者に様々な魅力を提供し、高い評価を得られれば、その魅力が各種メディアに加えて、口コミなどで拡散され、さらに来訪者が増えます。そうした地域の盛り上がり事業者へ伝わることで、新規事業者の参入や新サービスの提供など新たな投資を促進し、地域の魅力がさらに高まるという好循環が生まれます。

そうした好循環に繋がるよう、地域で情報共有を行いながら、様々な主体を巻き込んだ情報発信を行っていきます。

【取組例】

- ・ 地元観光関連事業者間における取組の共有と積極的な情報発信
- ・ 新規事業者の参入や新サービスの提供を促す支援の実施と、その情報発信
- ・ 事業者間の交流や情報発信につながるイベントなどの開催

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 新たな市場の開拓
- 課題② 客層の変化への対応
- 課題④ 滞在時間の延長
- 課題⑦ 定山溪までの交通利便性確保
- 課題⑧ 定山溪エリア内の交通利便性確保

■ 基本方針のねらい

「定山溪エリアの交通利便性の確保」を重点施策とし、定山溪までの交通アクセスや、定山溪内における移動手段の充実を図るとともに、それらの交通を受け入れる環境整備を行うことで、利便性・快適性を向上させ、来訪者の増加や滞在時間の延長を図ります。

■ 基本方針の方向性

方向性 1 定山溪までの交通アクセスの充実

札幌都心や地下鉄真駒内駅といった主要駅などから、定山溪までのアクセス手段の充実や、来訪者に対してアクセス手段の分散を促す取組を行うことで、季節変動にも対応し得る安定した輸送の確保を目指します。

また、来訪者が安心かつ快適に定山溪まで行けるような取組を推進することで、来訪者の満足度の向上に繋がります。

【取組例】

- アクセス手段の維持・確保
 - ・ 季節変動に応じた増便対応などに関連する交通事業者との連携強化(札幌駅からの直行バスなど)
 - ・ 宿泊施設などの送迎バスの共同化に向けた課題整理(基礎調査/実証実験の実施など)、運営体制の検討
 - ・ 真駒内駅前の開発と合わせたバス発着スペースの確保の検討
- 多様なアクセス手段の活用・分散促進
 - ・ タクシー利用の促進
 - ・ 地下鉄真駒内駅を経由するアクセス方法の周知と利用促進
 - ・ 新千歳空港や、周辺観光地(小樽、洞爺、登別、ニセコなど)からの交通手段の確保に向けた関連する交通事業者との連携

●移動における快適性の向上

- ・手荷物別送サービスなど、快適性の向上や混雑緩和に資する取組の推進
- ・個人客を対象とした交通手段を含む旅行商品の開発

方向性2 定山溪内における移動手段の充実

来訪者の利便性向上や周遊促進のため、定山溪温泉街からの訪問需要が高い周辺観光エリアとのアクセスを強化します。

また、周遊すること自体の魅力を高めるための仕掛けとして、各観光スポットに応じた、多様な移動手段の導入に取り組みます。

【取組例】

●定山溪温泉街と周辺観光エリア間のアクセス強化

- ・積雪期における定山溪温泉街と札幌国際スキー場エリア間のアクセス強化
- ・無雪期における定山溪温泉街と薄別・豊平峡エリア間のアクセス強化

●周遊の魅力向上

- ・目的地別の移動手段とルートの提案
- ・サイクリングルートの整備
- ・新たな移動手段の導入検討

方向性3 受入環境の整備

自家用車で定山溪を訪れる日帰り客や宿泊前後の方が利用できる駐車場を整備することで、自家用車でいつでも気軽に来訪できる環境を整えるとともに、来訪者の滞在時間の延長を図ります。駐車場の整備にあたっては、持続可能な運営を可能とするため、有料化を検討します。

また、定山溪までの交通手段と定山溪内の移動手段を繋ぐ場となる拠点の導入について検討します。

【取組例】

- 定山溪温泉街における駐車場の整備
 - ・有料駐車場の設置に向けた実証実験の実施（スポーツ公園駐車場を試行的に有料駐車場として運営）
 - ・遊休地などを活用した駐車場整備の検討
- 交通結節拠点の検討
 - ・自家用車駐車場・バス発着地・定山溪内周遊の発着地などとしての機能を持った交通結節拠点の導入検討
 - ・観光案内所・休憩所などの附帯機能の導入を含めたあり方検討